

学校だより



丸森町立耕野小学校
平成31年2月1日
校長室から 第23号

「うつくしく」「かしこく」「しなやかに」 一人一人の「命輝く」耕野小学校
～ 梅白し まことに白く 新しく 星野 立子 ～

授業とは 子供の可能性を引き出し伸ばすこと

先週の1月25日（金）、耕野小学校に、宮城教育大学 名誉教授 相澤秀夫先生をお招きして、授業づくり研修会を行いました。

当日は、相澤先生自らが、国語科の示範授業を公開し、丸森町内の先生方や、地域の方々がたくさん参観しました。たくさんの人に囲まれて、ちょっと緊張気味の子供たちでしたが、相澤先生の授業の魅力にどんどん引き込まれ、最後まで集中して取り組むことができました。

2・3年生は、「ビーバーの大工事」（2年下巻）を教材に、音読の授業でした。一番始めに話されたことは、「かしこい声」で音読することです。「かしこい声」とは、大声ではなく、はっきりとした響きのある声を言います。そのため、口をしっかりと開けることが大切だと教わりました。また、下学年でも思考の速さに合わせて、句読点で切って音読するのではなく、スピード良く読むことも教わりました。（2・3年生にできるかなあ。）と少々心配しましたが、子供たちは見事に、「かしこい声」で「スピード良く」音読することができました。

4・6年生は、大張小学校の5・6年生の子供たちと合同で、「走れ」（4年上巻）を教材に、読解の授業でした。自分の考えをノートに書き、隣の子供とペアで考えの交流をし、最後に全体で読みを深めたり広げたりする授業でした。自分の考えと友達の考えの「似ているところ」や「違うところ」、さらには「新たな気付き」等、豊かに読み解くことができました。授業が終わった時、「ああ、疲れた。」という声が聞こえてきましたが、それだけ集中して考え、充実した授業だったのだと思います。

相澤秀夫先生は、いつも「授業とは、子供たちの可能性を引き出し伸ばすことである」と言われています。私たち教職員一同、この言葉をかみ締めながら、これからも、日々の授業に取り組んでいきます。また当日は、地域の皆様にも、ご多用の中、参観いただき、子供たちを励ましていただきました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました！



2月6日(水)、「仙臺いろは」で柿販売！耕野の魅力を発信します！